

日本史上もしくは世界史上に残るであろう昭和四十六年度わが三年六組の結成は四月六日であった。それ以来、小野賢正センセイを中心とし、ヨシにつけアシにつけチームワークの名において各方面に発奮し、活躍して来たのである。具体的に例をあげてみよう。

…応援歌練習においては、名目上出席もよく一二年のよき指導者となったのである。
 …高体連・甲子園大会地区予選・文化祭・等の核クラブの中心的存在者を数多く輩出し、活躍したのである。

…春の遠足は、岩手山登頂を目指して、山道歩き、崖をはいずり回る大奮闘で、七名登頂成功。しかし、あいにくの雨と風と濃霧で山頂から俗世間を展望することはできなかったが、あの残雪の感触は忘れ得ぬものがあった。秋の遠足は、遠足には非らず近足で、岩大植物園に行つてすぐ解散。

その後は各自、ジユウ・・・。
 …校内スポーツ祭は、前半の少勢にもめげず、男子二位を勝ち得る。

…二月に行なわれるであろうラグビー祭はどうなることか。

以上、今年度の行事に即して例をあげて来たが、前述通りわがクラスの活躍ぶりが知れるであろう。

前に書いた事はかなりしらしらしかったから、今度は、べつこ六組の実態を暴露すんべか。んだら、いつぬつの事でも書くんべ。

あさまはつづよんじゅつぶん。登校終了のブザーが”ブー”となる。クラスに入っているのはたったの二十五人だ。でも俺たちの先生はいい先生だ。やっぱ物理の先生だけある点呼をおそくとれば遅刻は減る。それぐらいのことは計算してくれている。ほんまに遅刻に関してはいい先生だべ。しかし、ホームルームの諸連絡をたまにまつがうのがいぐね。

”ブー”授業の始まりだ。点呼。先生は一席から四十三席まで名前を呼ぶ。先生曰く「お！今日は全員いるな」すかす、一つの机と椅子が冷たく一つ寂しく坐っている。今日も成功。六組のチームワークの成果”代弁”だ。

授業中。寝てる奴、目のうつろな奴、真面目に先生のお話を聞く奴、どこのクラスとも変らぬ風景だ。すかす、このクラスには国語を除く各教科ごとに卓越する奴がいる。んだからそいつを中心に活気ある授業をする。

休憩時間。勉強する奴もいる。だべる奴も

いる。ま、さまざまだな。

いつぬつの事を追つてくと何んぬもね、ありふれたクラスだけでも、六組は男クラだ。何がある。その何かはずーっと前に標準語で書いた。みんな！三年六組につづくことだ。

わがクラスのよき担任はこの一年間よくがんばったのである小野賢正先生であった。賢正はあまりケンセイされるのを好かず、この字をカツマサと呼ぶそうである。

山のあなたの空遠く幸い住むと人の言う、先生の奥さんいまいずこ、当年とつて28、ああまだ本当に独身なのでしようか。クラス全員はそのことが最大の悩みなのでございませ。大学出でてはや幾とせ、まさに我がクラス全員の苦悩と恐怖の的なのでございませ。もしや我々もあなるのでは・・・。そう考えて小さき胸を痛めつけている今日このごろでございませ。鏡を見ては先生の顔を思い、身長を計りては先生を思ふこの教え子の心のいじらしさ、しかし、我が先生は誠に心の美しいやさしいお方でありんす。このことばかりは身にしみて感じているんでござんす。あの清らかさはとても我らにはまねのできないこととござんすよ、本当に・・・。これが一年間の先生への親愛の念の源でござんす。